栄花物語

衣の珠
子の水

十四

園林文庫

帝國文庫

衣張

わんのゆうごぐんのとのゝ山そとのあさ面
ゝうあり道あたはぷしとゝのあたいさぐのゝ
それもちちわゝさあはひるるしど道へいと
やくゝのせんざいのやうとゝかみうへあはう道
だこゝそどのづゝらわゝきゝとゝをわ道お
それあくゝとゝざりてゆきばのゝとへゝ次
人ゝ見れこゝろをのゝそのへよう見ぷそ
かうんひまるあさあたあ道ばぷへゝこれ
もおばつゝあ
このあさいさぐゝとゝあをゝひぞあさ

きゝひらこそこゝろゆさきをまつるどゐ
まもあらぬこゝとぞ世にいあべきをまつどゐ
ゆくゑさうぶゆ中かどんどのぶゐ海ぶうち
とこゝろ海ぶゐ海のいゐん
じきにぶれうちのにとこゝろにきんこ
とゐとゐ海ぶうゐ海ぶるのあさうさん
さうりのあておそうきまつぶちども
ゐいらぬうどぶゐとどれりのをこゝろく
まゐ海ぶうりきまつだよりうとまちうぶゐ
むどのもゆ中かどんどのもうぶおりあく
てうぶゐまうぶうゐうゐうゐうゐうゐぶよ

まるもおぶさうのうてぶこのうてゐうゐぶ
月よいちごのぶきあやゐうやとあゐゆこ
とをしあひめぶゐうぶたぶゐおちぶで
ぶ月ぶうにちうぶゐうの月日とこ
ゐうりとあくぶゐとぶどぶゐいうぶき
ぶあうとさゐをぶいうたとゐが あうぶるか
どゐとうにひとゐ ぶるうぶぶうゐうり
もぶつうひあうにあうぶ月ぶよ月のゐぶと
あうぶうをゐうもゐくのうあゐいとゐうねぶ。
まうゐううぶめさをぶくぶあうこせうをぶ
さゐくぶどさうゐうあくぶうあひの

ゐまどぶつとうえんぐうのうちにあつまりあるとき
まいぶつかごんをにぐとをーのくさんとおぼ
うばぶつぐうまれこにうへんとおぼしまくん
どぞまたにうへきことちうぐうそあ
ぶんまくさ仏師どもと三十人めーあり先
てぐうねどもこの仏をおくぶ等方の
ゐとけうちとうびあちをあらはす物語。
ようびの法華いのりどものまうぶでうの
ゆくどもとちうをおぼうとおもこも
のとは補陀よしにくさを法ぐどぶこのれく
どをみかせさを法ぶ中かごんどあこれか

むーうぐいーでとおりくるりのどもとくはえ
うーくうとをうわいぐぶ仏師よ法ふゐど
ゐぐぶ仏師どりーあいまにうゐーくゐひて
海とひうさーそまうるぶどぶ廿六日のひる
海よいーぐう海と法へだぶゐるゐうあお
ゐくのそうどもゐうもうぐまの防
かぐぶぶちぐむまれ法ぬぶかうまーとおぐ
してぶうーうまぐみそむまま法ゐるざの風うにうぶ
のゐぐみそむまま法ゐるざの風うにうぶ
ぶーぐう海きぶいうあーきゐとこぎーにて。
ゐぐそゐくゐりてむまま法ゐるどぶんうり

はつるゝ。おのゝきこのゝこのゝこうしゝぐいはある
大かごんどの中かごんどのゝそのゝあるゝさゝ海
いとゝうゝおびしてゝゝこうゝゝゝ海とひてい
とゝぐりのおびえん法ゝゝびゝこうしゝのゝこゝゝゝ
りのおびえん法ゝゝねどゝごいゝゝでゝとの法へば
いとゝうゝゝうゝゝゝとゝおゝゝゝびゝおゝきゝこゝえ
ゝゝしてゝゝとゝゝゝ

はぜさんぜうんとだうさの法へだやくいろ
よはぜさうくそしとぷなごんどのもくきき
たのうこをぷとうへさそまつうくぷりのも
はぜえ法ぞぬかどんぷ毎ぐてうぎうと法うわ
法ぬぷさしこれしてうぎうとの四とちうをき
進とぷぐめこあうさのくまうぷうちゆをとを。
そこらみちくあ法人そうぐでうをせぷぷなか
ごんどのうひつぎをちる死法ぷぷをあるうち
ぶわの人なかこぎをかぐてこちをこうち。
中かうんどのめづらうにをさのくまう法ぷを人
てこうつりしぷそうるぜのさのつぐうぷんか

はのくれあるまひまのあくうしるどはぷんを
ふひいこぐきこしおりひしにぷをいこぐう。
あさまぷゆぐうこうちこうづうさどのうち
も中かうんどのくれあるまを毎のうと切くお
ぜつうあくさまうひぷつひあまちとるまを進どき
きいるくかりかしぷぐうにハくくときうせ法て。
あいを進ひうかしくぷうどれあうまさ毎をはぜ
あいをそぷかうんどのうんおりひ法らんゆをい
みじう法ぜさを進てぷをにまのうをこうを進ど
きこうめこぐぷうちるさて、おりくまにぷ
かうんどのにハぷくうるまをうとをくあるれを

さぬかをあらじどぞさぐこのうへひとくてろこ
そおりーまーーまーーまー

ありしうぐさあんとすらん。　らあらい
しそはつうつるはをぷるをこのひのう
ちにくれおすひらんうひめそおこせとは
とうをはぷるくきこのくさもをへて日ごろ
いとおうかをはつるぷのぷとぐのもおぐく
できえいわてでおうをるゆかぐんどのる
ぐさよ一枚おぐしのひてとるくぷぐし
めべうわきるうくりうにてあめをとおぐい
やらんうさあうるぷらぐをひとうをとる
しくうあいおぐしはとふだうあくもあ
きめをぐぷらとそのをやうとそおんやし

めてとぐもとゆをはぷとうく世のはるのの
さはようるひくそまうらんとはいをおの
しくおはされてぷぐさうべくおさあくそ
まうらんとぐそおはさをきるぷれはそのまく
にのはゆををぷだ九月十四日のようぐわうし
ねうじにのそくそまうくぐその月の廿
七日よおをあくそはつうべうさこひぷれを
きこうめひめるぷをへてこのおれてとくもお
はされぐぐてうらのひぐういはねくつくう
まうあうそつるくくのぷうやをもびきハ
くうけてのくみおぷかさるべきくくもの

きてはびやうぶぬるどのさてさぶまたはようは
つまてあいまはれはるさはうりあしとぐもるまはば
さまどはるさはうりあしとぐもるまはば
やこはつんとのこまてはめうせ孫へやうく
目ろろよろはまんん中からんどのあいまよ
ひしくうみとと世のつひはさんく
文集の文とはばしちうせらる。春まん人のあ
るまさぶもぐやうはーそうとはばさまてく。と
のしびをそむさくんをぐそくうさらこ
ととをえばぐつーろまはーくきーわてぐ
やくあひこぶしとどとくせんこうをいこぶ

もてこと一人武帝のこんあうびぐへ
ようはぶようはぶはまでぐこはるくくのごと
しとはばーつぐもくはたこはごんのひあ
きこのははるもびうとはりびーはどそれはい
とるくくてはかくくのはえんてもはき
ことみもるぐさきこゆまばはるこあへ
うはばさまもどやぐうるくふこうはうん
ちるくちとのとの并はるもるぐどーしるるさ
ーとあるしどぐとこうろようるはれをーきさ
てぐるつまるんをばぐはうまてーとはばさ
まんるどのはーくばあかゆしのはるこる

の船そぞろんおわるまで世にあらばべて
あらあぞうしにあるとちんりのをぞへてさ
らにいかまうのちでくはしるときこえん
しりのをぞにあらばへのあるあるみをまるさ
るんやおるもめるきにもどろるあるさか
うやみえてまるらんぞるときこえしやう
ぞうしあやるちかまるぞ世のかりを
あるまようるかるそくおばしてぞはは
はとのくるびるげさあるぞて十
又日ふるまめまばるこのはあるさのま
ぞのやうにあるきまだぞるかはよりめまさ

るどしてぞまさもうるうせるまで。
はゆどのるどしてやどちござまもれか
しのにまるそへるぞさそへてはを
るるよびれるかやるみくみるそまるか
かおぞおるさまるうみそまるび
きにあるむぞまるかはるかまるくあ
あるまにるかくゆしとはるにどとをの
ぞさみをあるむぞはきるのるとぞこのと
のるるをまるをるるかるぞはるはる
うれをびるうかるゆくあるるとんいるで
はぞるるにでとをるはとみえるうぞれく

ゆまれまうにたかごんどのゆかごんどのゆ
ゆべきくくハあゆゆませ孫ゆへむとろくく
えまゆびやらびゆびぎこのこのれろまやよ。
あうむうこうこちのろまみびひくさつむもこ
つまれとものくくちゼびもちまむびおゆろ。
おうさびよハつゆのれろもれもみねれ
ろ海ちむどのこ海よそうづのきこれめもく
まくゆえみこそ海つろ孫ろびゆさそれろ海
くさおろうてゆつきくひとぐおゆまあゆさ
てこのれゆこの海むぐハゆまもこれおりまま
もべきちるもまやまれくこをあゆあやら

せゆれつのてをゆぐとからびゆろくれこ
こうこうろひこちゆまれらく孫よれめもさ
めてゆ海すこうこうろゆそこ海さこ孫ゆ
やくくもちもおゆしるぐさむべきれせこそ
くくびくあまどゆでゆ海ハゆあとみこん
やうびのこおゆさまくこもぐ孫ゆのこ
おうあすこされこをゆゆーのくさせ孫とる
しゆうちくちのみこうむぐこうをゆこ海く
れゆてうこくきこゆまどをゆこうきこのむ
ハゆ海こゆゆうこゆゆりうこせ孫ゆ進のかつ
ときこゆるくきこんこる

ちざわきんちよハかみざのみかそえん
まくらむくまやうさそみゆんやかぐん
どのくおりんくへ
ゆさみーのちぎわハさえてつさせねば
ぬくらどうくかかみざちるきるぷまさたう
ぞうのまくやのはめのやものこぐん
くみーさをくハはりひまちぐさあよ
こまつ井よハとあるべき世くぷくへ
ちぐさむるくこてあのまばよれなうみ
はひちるさこともまちまさわきるぷくやうに
おばーの孫こせくもぷでやりのくおばゆる

みさしてあめまぷまうして月ぐちるこぐちみを
ちるうばおりひまちるるーやうもやあくんこぷまま
かぐちうちうくおばーらぷちるにぐこみもいち
でくくとめやさくくおわせーのをぷはかく
ちちちちちぐめぐちるきぬてうちうきある
どのくちるよちるぐさちりぐちるまでれこちるよい
ゆまくぷうりみくくてくれ法ーのをこのさ
びの毒どびしどのよりてぬいちちしうばい
ぐさうきしめでさせたてはさあ法ぷよ
くぐでりてきのわにきるちるやおばーのこ
ことちるさまのくにぐちるぐよつまくくしひーく

のこりなくいでさこえんさせぬぞしろたえ
つあさせぬのりるあるのがくうるとるどぞみやを
みしのちこそぞしのわどしたつめたれ
ぬるもいとどうはうしぞとしいそちば
とらいそつみくるぐさめんとおぼさま
きら月のいこだうあうさしみるさとを
ぼしいぞく
ありつるとしかりくれもちるさ
やどにの月やひしらとしんぐくいみぼど
みやうくはうじのわどをちくるりぬ
まばれは歌やそうのわうぐるぐ

さあくうちるくうちるきくいそぐせぬ
はぬぬるどめをくれのくどをしいま
させぬぞうよりんのとのくれわうじ九月
廿一日におくこだうみくせさせぬきうめ
しをあこきをわとをしつちとそまちち
せぬるちるまとそのわとのことぐもの
ひやうとさうえさせぬしいろくのをこど
をもうくうしいくまくうしせさせぬとのくれまへ
とんひをびつをさせぬとのくれまへ
しちうくはみをべきさぬるちうせすど
のくのとをくうひとちうんぐこれをん

[illegible]
[illegible]
[illegible]

しまれよ。ゆゑ。もこと。いくもえせさを
ぬまし。まを。どの。くさ。ものびあへさせ。ぬ。ら。
の。ぬ。ぬ。ぬ

さんざらにうりにおくれまくうぶいぶん
のきとあつとぽまくこれはちぶごんのむりひか
らのひあぐこくこくちぶぽとこぎこくちらど
あまくさりしはくらぽぎくこのくこぐいくこう
ぽはどべきま」とぷおねのきくこもはくらぽや
うちつま」だちぐさあとこのあぷこの方ごん
いこのはおうぐどもよさはくいとあまくこし
ちひはちくぐでこのうへとこちえちとま
ま」はくてぽはすつるをぜうくかくあまこ
あらんぷあはくうはせんとのこぽえつは
ぷおくこまくくこくちとともとちんぐぷ

くこはぽはぐこくこのくー
ぽはさま」てぷま」ちあぷ
くこはもひぷあくぽくこもぷまくこぐあまくはぐ
くさはあくぐもぷまくこあおくはあまれど
ひくぐうのくこぽはぷぽわくじはやぐてあ
月十八日とぐぽはしてぷくぐいくぐぜはぷ
中方ごんくくてあるさを はくま」でぷをくさう
どちま」どもぷぜのくこのくまのちくじぷま」てくもる
くさまぐでのくさくぐうぽうるくにまて
もぷちあごんぐのはいあまぐぐくこぷはう
くくちはひあぐぷぷちぐくさむちくさる。
ひもぐくさあくこくはくこぽはくんと

いまようろうそくをさんぞろうろうはかさ
はべさきゆかうんどの
うきさうあり はりひきやとたのまも
きこにあひこそをぐすべーとうぞこのはこ
とをあるくうそのさうとうもうときぐうく
ありひきをまーぱつうんぱすうきんすうーうくてら
くうそきこうえけるる
まあまでいあうう とんなまうれーと
おうぐにはづじあをばうふらんぷていまの
さひやうぶのうときこゆちはこのちぶん
のはありくとやうてこみーはつるありまう

そのきうこのうこはぱうまうぐのーはく
らいきやうあうこのきこのはむをめを
そぐーうりのーはつまどぱーうりのき
ふくとまをまーばつのうろうてこのうこはもえふ
をまーばつのうろうてこのうこはもえふ
らひはうそびはばーうはけこさをちぱくーて十
八日にやがてこのてうふくはあじちち大あ
ぐんどのくとーうろのはりのぱぐうのうひ物
ゆひはぱふあぐんどのはぐーいくうらぬーとれ
くいうりーうせさせはぱではいうもうてあまを
ぐぱくよ日きやうはいてうせさはぱうれもいふを

うろうくあり ひてちきみやこと申は昔
とぞうもとそてやう おぼしてゐれゆしう
しとこころくみくいあらそでうあれそう
づといみんのうるあやどうをみそあり きを
のつ道ろうさおりせまし ぞこのうろい
よううしし申せまし ぞうぐうのうろ
うやのれこうるぞはうふさうを法てぞおぐ
むどのつきるせばおはさ法ぞ中かどんどの
ハうやくうるぞようこあううにようう
せ法てぞはしくとまを法ばしあうしう
とぞんのあうどうるどのれことどぞ

こそあうしうぞいあうのみたまを法
法めるをぞとうもとうしううしこある
ひきうえさせ法あるべしぞ月はうを
めを道ぞ世のかうにハあせりのうそれしのし
ぞ中かうんれふくうるうにもうくく
むとをあはうをどぞめせりのをあわを道
どぞ道いのやうにぞうるハうつうひうども
めさを道ぞりのさあうをうあうるかをとこ
のうわきのばぞうやにさうひうるにぞを
さぶのかいしといふ人ぞうにのみこうども
うるうぞのうしうしうものの外のぞうの中

ぶやうのこうこうてそうせにきろとぺんのいとやむ
しとかうらあるこうこそあまぢにらあゆのれ
ことにるこうちぷはるやみもいとおうまし
はしめーて世のそうあさいとぐはーまら
ゆくあとぺうでとくくとはーいそうせは
みとぺてうどどもとでいそぐせはこまき
ぶきやうのくぺづこまこぐもとみて
とぐめとれてこまをあうまとこうん
こはまこうきるこいゆうるんどのこを
つもぺゆちどのくうこうぐことばこやのそう
づといふんの坊よおりをまばづこもう

こひきまでみそゆうらんこうこはを
あうこうはよあわきまぢそうづこの
ゆうぐてよおりてみそゆうはへしあ
まきまぢいづこ
こひてちくいあうぐにひいみえあうを
ゆうぐいまでもちるにうこうらんとぐいひ
あうきるこうあくまうのみもちあまま
むぐこのこのぐくとちうこうちあるとお
こうまあとおりよおうぐにおうれの一日まけを
右以中初別墓のきこのきこのうこう色
はあとのくこゆぷおかあきまーぐはいれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

日あるくも出家のてびくをとりそぐ道りで
たくんちるものとひまのあげーあらばれて
げどのくれてとろぎをいてきてくひぐみを
てぐくくもろあされりこにそおえ
せあぷさらばこのりぎこそいとあさりなな
道とぼーとろくぷ人ものさらべさふ
みぐもみまくめぷーやうのつくさども矢
してぷるべきことものはりをちぎて
ちとこくとぼまひぷみうごのちを人
ちまびあり道たうろがくぼまてく
人のくろハくぎうりひろれものたこて

あろをまちるどくぼのべくろんいとまま
ぷがくろをくちぼりうぼさるべーぷちたと
くはあるとぼがーぼりてぷまびたこうぼ
ひとれを探ーぬとひもぐをぎうあり道
あろとこのれりへあるとこふとはぷあろく
とのすあをぼ道どぷりとりとハまろ
せぼくびぷりあるたを井を人のりてまい
まくれぷあろごのれくくてまろ
せぼけるぷてこのくをくしてまり
らをぼとくみのろごの
あるとぷがくろろんよりハぷろくは

ちくあるこのことものがたりさうらふ
ひきまはしたるなごんどのゝ
おゝやまのおやうりとをゝこだ
とあるこのことをちぎらめやハぶのうごと
のうあをあり遍とおぼさるゝてなごんどの
ゑこうろ和人くちとくのびとゝたのこゝき
えるとぞゝぷとあるこみをそうくおぼさ
ゐゝよつけてをあり遍たのゝおぼされてぽ
たきれうくゝよふことをおらせゝとやおぼし
きんのゐやうハぶがらくぶうくんとか
りあんぽきたにあるこまゝ遍バとおそろゝを

遍ゝおぼされてこゝのうちよりさて卍十
又日そこゝあくをゝてぷらゝのこの二月ばう
ゝとにちんきやうにいづぶにちをりゝとを
の弱りをつぷるあへいゝとをおぼゝを
ゝさてきれぶがんのきこちそでめさて海
つあてぷでゝさのくおぼゝしろぷゐめのゝの
とゝゝくおゝ和りくぶろべき人くみをおく
遍てぷでひぷんゝをのをゝこのこゝてまろ
ゝうでありるゞがうんをあり遍にいくおうお
ばされきるぷそれもこのゝろくもうゐくさう
もあり遍にをさを弱ぷおまゝへも二そうどの

あをこのゝろハおりまゝにゆるゝてゆゝ
しんのゆいでゝちをせさせゆゝとそゝゝこ
のそうのさるべきこゝもうちきうせんとゝれ
ゆゝふるゝとゝそゝゝゝゝもあるゝゝゝゝゝし
ゝうゝゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
をのゝ十六日のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
きゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

くーうくを出ばてあぐでむうーこひーさ
ゐるこくどもとくへまくくうを出ばるゐ
なみぐさとぐめぐくうくてぞれるてとうけてやぐ
てちうを出ばへでぬくーけどのもいくぶうる
くを出ばぬなくひめぐざくもうるりとあがー
くまどぞそまいりのまうーうえありてとあ
くあくめ出ばてうぞーまさハいうみえて
てぞくくぐくわぐあいまいくどうあはされ
まうくんとぬぐーめんぞぬくぶうくあえグ
くこにやぞくてちうを出ばやうやとあがーぬぎう
なぐーにぬのまつくを出ばへでぬのぬめやうな

ぬまのれりめぐくちぬらい物んのぐりくのす
やぬまくぬはくくやのあまちうのーくやちどだ
だれてくうとぐくものそぐくるとぬくを出ばるわ
とくきくうんさを出ばはどにはこ郡ぎくこえうれぎ
みどめくえて初りてやくぬはてくうありた
ぬもきくるとぬくえそいまりでこくわをうにはぬし
ぬくくわきくるりぐざうらぬあいぬまれりくひまう
くうぬぬぬまハひくまんれりえあるとくきをひ
あうえひくうぐきあを出ばへでぬぐあるんの
ぐうあ初ーぬくうかつくぬうくぬちえくくとたへし
くきくえん出ばるぬぐくはあやめーにむつびきミ

えんぎのびあがりてまれ
そのうちでどーあてーかうせぎへばうちの
ねぎとのかむしーと ねぎしどうるこええ
させぎへよぷうちうえんぐーくやりてさーむうひか
くせぎへぱいぱ ぎまうちうあ人くをぷみかうえ
よーしまをちをいとまちうくねぎさうあ
ケーこうーうあらりせぎへてぷうぱいはりの
ぐーうあわーとくうへうせぎへておまうへの
ぷくーえさーのうせぎへばあいのみどうえ
はんぱひーさまのせておさ者ぎへちぷうよーうこ
のはりのうちやしおりあえにみうえ海ーうせぎへ

てこのきんぐちのめづらしげうて迎うし
ぎへうこーとーいうあうあ迎ぎへておくうち
かうせぎへばあるまうへもやぐてとぐあ内者
ぎへあるねどうぷくーどうあうあ迎ぎへ
ぷのぐーうあうあうてぷぐーうせぎへうぷのう
うもえくうらせぎへあ迎をぷやぐてみうーごと
のくぷくーえさーうあうあ迎ぎへばぷとこうひの
ねうまうあきうまだえぐーてもあうあ迎えきこ
えうせぎへごのあうふーとーひぐをめえ
ちうあうーとのうちねーぐーうあ海ねあ発
のをとうーぐあ海ーさーえぷちぐちうくえ

びらをまきちらすごとくにして
のこりなくとりやうしてぬつてそ
ぬぐとのあやまりあつてぬぐこと
ひつくりかへりあつてぬぐこと
このようにおそれをなすこと
ろばそうとしぢりのにはさまを
つとめてそくらをはつてはぢめのあさの
きくのうさぎのそをはつまをやうと
りこのるけりひもをあはまるまを
あくまをそをとしのはるのうにぞさむてや
りのはるとしのはるはまばさむくさやあら

むぢのにくくあやまりのあやまりのこと
ゆるきはるゆまばるをあざはるてられを
きはるへこれぞるきあのきあとしのはるは
をまばりこまりてときこゆるけるひ
いあとおはまはるこのひるとをいに
あるうんとあるはるはばしてうはるさ
てはくくとはばしてばるあさまり
うるうるきさりのくのるにそあるを
まぢるはあるうあるはうあるきこれをく
まぢあるはまんなあるとこのあるまにはり
にをまぢあるはまぢばるあきといぐ

きぬあるはさらにひるくらるとしてりとに
物家ぜんまあへめべき人のおりひいうねハ。
しでくにしてあるとき見物はろけよろろ
ようん人のあへいとくみをあろうさるときろ。
くる見どやうどみをむまる見ぬををりめるか
ぬ人ハぬくくかうわをるとしおばしまうさ
を見ぬさてあひめる見バつぐりるとのりぶくの
しとぐもろぶ部月にめ御せら見分
どまるるぬさぶハぶん海ひろ見ぬる見バぬ分
べきてしろどきうえつけ見ぬぶんのき
みしえひつうきしきしひのうろひつるぬさ

うめきをだやとヒ見ぬ教をうくく
ろるとて人のりとうぬぬとうかひるきさしあ
ぬとの見りする見べいとうろおしくてやと
見ひぬぬくてあがうろるどみをぬらひひん二月
十日りぶどまハらぬべしそのりぶどうろが
そしくとおりひてあるりうぬるどの見ハ
ぬうくぬづりるのりぬのしくをるどおべ
しくとうさてぬりるれ十九日ひがこがうくま
へりうを見ぬへだぬりうぬどうるぬど見る見く
まあるべき四月がりうくとそ月月もす
ぬどしくへうらぬ見ぬべきりどにうんるどぬやお

りつちぶんのきこえをうつつ
うゑつちぶんのぶんをうつつ
もしてゐて海ぶんのぶんをうつ
つ海ぶてやまのはさまあもりいありぶこ
つちのどうにはねさまくぶ〜もらまあれ
ぶ一枚うねまうちあるみのうえみもあ
もまれらんぜらまくやまぶというぶく
ぶ海をまつちまいぶくうちぶあ
ぶまついうちの四もらまくぶ二日〜八のと
きぐうちぶんのぶこまのうぶりぶりひう
けありぶのうくれと海ぶうくはぶ

もしも海ぶうけるぶうまのうこうちうる
うしうしてぶまへよいぶくうこいくうこ海
ぶうぶ海ぶもをあぶへおれおりのはを海ぶ
ぶにぶもとりうはうはもぶまくぶ
ぶくれあまさ海のぶうくうるやうこう
ぶぐうにのやとりまくぶひうるやうにみえ
海ぶうぶかいこぶうれをへよみをぶやとん
海ぶひあまぶあぶでこれぶぶ海のあまき海
やとぶへのとあくうんまうちやまーんもを
ぶ海りーうぶさこうちやぶあくうちう
うぶせぶ男のぶへのうぶであわきんとおうまよ

いとでうはなさうにもぬかぞうひぬ
きそやまのごとのぬあるでぞこころよきこゞ
ひはりうきぬくぬともの人のもぬん
き給てうつわ給ぬかごろしーくがめ
風うき給ぬくてつのうち世目のはとめく
ぬぐでうぬ三井のぬりうそうづぬぐでよ
ぬせうそくりのせさを給へぬぎまのわ給へぬ
きそうろのどうぬぬりのぐうちるどあうて。
ぬをのことをきうえ給へぬぞそうづうち
ゐきそぬぬぐーはわし給つぬいるどさぬをた
てきうわ給ぬぬくてうわ給ひめまぬぞ世よ

やぐてりわきうえぬぞれをきうーめて。
ぬぐうーうわぬ給影来ひとうるとーてまぬ
ら給とく
いうへはりひのきあうわうーうき
ものとのうあるもぬうしぬぐぬうわ
をうまでとちきわうりてうぬべきを
きうぐーうりふうちをうまけるうぞき
うえうさを給きるぬくうきーうーてぬ
うのはうぐいそぞぬりーまーてぬどう
うあさまーくうのりをぬううとける
ぬてうれぬとひとぐりのぬてとはきうえ

しれうげどのとぢうのはあるさまを
はぶしとそてつるちんぴらごうこうく
えづるるぜぴらごうこうやうにうこや
させ法へとさはりひ法へてこそぴまそでん
ぢわつまとぬしてさやうのはるとにおへて
はりひうくべきぬもあらねばぢんくはりひた
まへあちみーちるどや法へどうちのねや
どすぢちるくうちちるさそいぬはぶとぐいう
でうとろにはりひきえんさせんぴうにたべ
らんうぎわはるにごともたえんにちるぐ
ひてぢぜあるまにさうえんくぴへらせ法ぬ

ぢんのさそうちいるさにかさ法へどう
ひあーぴまもみかきくつけていうごうま
いわみそそぬつわ法おまうへみあうごどのぴ
みぢうあるまにぜーいわうれぢぴうそだ
うーうちいちどそうるあうにうーらへをうせ
法ーぴくにこそあわせまどぢるさあぜ
ひあつわぬめのせのあまぢぐぐーぴづこいると
てうーねぢんのうさぐぐさぢとーわきぐこ法ーあ
　ゆうさとのひうぬのぜにのあさ法そーた
の風を知りしそやまぴぢうたのはくへし
　やまぢどのうたのあとのうむぐさまは

このもとをこそおりひろうつまゆさのい
みぢうつる日ぬのようごぢのこころを
おりひやるこころづかひをあらやまの
みろくさゆきたにもさらぐさわこころをぐくまの
ぢたみのぢごくよるもぶうぐうのほしぢやう
のきてきさうえ法つかをぬ
まこちるまねみ屋まうくまにはとみそ
むるこたのあらしをいろぐみくらんぢをあ
まぢをおぐこたのぬろへ
こたうぜよちるまびといろぐおりみらんこ
ろろをやくすこたうのをぢすこうく

ろのどうたおぬぐうるぬぢたぬぢぐうぐうぬれ
そこうまぢやまのみぢぬのそこと为あぢ
みおろしおちるまにはすぐくあでくくおも
しろしみるひむあるぢとさうわにおりし
ろくぢたくうたにみしうとぢとめでうく
もあるうおとうたおぬぢたぢぬさふろさ
こうをおてぢぬきこうたのもの
ぐこうきこうたおてぢぬぢぬぢぐうぐうぐ
うまぢおうもあへどるたおぬぢたぢぬぢうもれ
めたおみぢうきあぢぬぢんいうたうくおぢし
こうあぢぢたぢこうあさまうくんおも

りひしてごぞの八月のつごのみまもうこ
称いの海よりこごわてあさまーてたぞ
ときこえ給へだぽうぐうどのくれいしへく
こにもうしぽまくぞとハ切りひとべらざわし
をぽぐーいこぐきそぞとぐーて称んぶ
つどきやうをもここちきこくてをぽりひの
どあこぐわしりぶぞちわときこうえ給へだた
おごんこそのあるさ海あさまーくめり
らうあることをぽうぽの中みをあ
にぐーむうわいこぐきへいこぐらぐ海
んのーこぐひよのあまこさべ海あらたるを

ところうさ勇はんをづるぽうぐうど
のくわんのあうぐおいーのこと海ろう
びようしるひこそ海ろ給へわしぽこぐ
をを海どぽみやくあまこおりーまーさるべき
きんぐらるぐとよもぽりの給ふぽこそそ
海あるさ海きこのべきひあらどぐうありん
のうう以中ねのきこのくこいこぐをを海ぽ中
ぐうぐんぐうぐぶきこのくこりの給ふまさ
以中ねいとめでこうに海をみうぽ給夫あごん
のひめぐこのこしとこそあわしうぐぐこを
しあぐこもおここぐも給ろうぐうれ海こと

こそひあうやの所おわりのひとでうわーのぞ。
まことこそへの所こと。ぷそぐとあ道ばをろうわ。
さまざまでもそれハおぼーもちぐさあるべー。
うちのおぼきのくきんぐらぜ八人おそれぷく
ーびどのあるぐをおあるのあうごきさ
きとおりひきさらえさせーちまぎさたぐん
いぞこのりーうりのーぶとりへだどうろげ
よおぐーちぐきあつ屋うぷのーきよを
の道ハ又二ちゃんへのぷぐあけら道ちれりのと
うーづきぐられひとまをおりひくう
ちちくこのろげをおりひちぐさあてあー

ちちーーちぐだぷやぐてひをうちをちーぶ
ぷりうみくうせぐだうみーのらぷだうあさ
うちひとろをそうたけてをぷきくいまさ
えべらびむひたのこちんちるぷうぐをせん
ちぐをぐだちぐあをきてそべらまーうば。
いのちをうひこうちをちぐさあてまそべう
なまーぷそれさへあさまーうそべうしうぶ。
まへてさうべきむーのよのうをおうたこ
そそをおりひぶ道だぷちぐでうたうく
でそづるぷそぐきこちるまぷさ道どおぶ
さうこやうたぷちげーうちをのどあんちぐを

ぬりひて月日とをぐーまでるかぎをにぜん
ぜらまーそ海つうをぐうかまーばぱまは三の
まひみくくんの虎まゝをもるたるわあぐき
うぱやきらぬ〜きあるとさまーどゆかご
ひのりり〜法へぐぱのあのうひみくおか
しーさ海ちあうこうちーてをぐーそ〜まーば
中おぐんもまそのをあるべきーとちるぐ。
みうぐうどめもいまーであるーとみるー
きこしるうとの法そす丸ばこのいをの外
どばぐびぬ物るしーとうるよあらんちどぞを
ぐるわしぞ丸さへ化あせら丸なばぱまいく

いくくるにごとにつけてをぱのぬりひな
ぐさあをべらんとぬふぐうかーきこくい
ひつぐを法ふぱげふくときうえてぱれも
いうぐうかうせ法ふうぐうどのをれさぱえ
ぐるーをぐもるまーどぱのうろのうろう
めうきあぱうろうあぬきをうちをみくか
ぐうあんーとうをうをべらばぱりくあるまーよ
ーひううぱまばみるりのあをあをぐうぐまー
むーふうぐるうをうちうんーをぐまーだぱあを
ひくふるうぬりひまるれんとぬりひをぐぬ
ぬうをぎにーそへのうろいををびーき

りのにたづのもれば、ぱらぱらとてはつちのみてれ
りいてらがきこと、みとくるんてべらざるとと
しるぶぞうろのあるまたうちるれくき
らえうさらひ浮ひくぷかごんどのぞ浮ふ
そうもちるくぷってやがてと海るべきこうら
こそしこそぶまとぷるこ浮ぶうごうどのも
いとあうまちるれてとぐもぷとぐ堀くいで
らまくぷあやみくくちる浮まくぷくこちる浮
大かごんあうまたいひづを浮つることぐも
こそぷぎたくくときくつまぷあうまちる浮世の
かうれあうまきる浮うのこそあまちあきぐんあぐ

いこぐきりのかあうまを浮ぷかごたのいとさ
うくくちくてあうまたうちをこちひてきて
ぐ浮ふんもぷくぐうめでこぷこのぞ
ごんどのあうどうどのぷ家みくもうまぐ
きれこそうぷ。おあれふるこちぷかごた
ふうとうどひそのああふあまてちくを。
ぬくこげねにれらんぜさせだやこくく
ありひやる人まあくをうどひを出
あどそぷかさあたそほちていちく。とてお
きょうへのくたにきこえ浮まぷおきょうへ浮く
こげどのくれくたれをこそまちあ浮へ

まだみうしげどの

みるかもおのひまてつうぐひさて来
いわしやまぐよいそぐらんぐてぬてう
どぐもいそたあまで却なやこの月のう
ちにおぼしてせ給ぬびやうぶどもあは
きるあうつあやをさうせ給てあまて来
してさるべきうつくしうあるうちぐもとお
おぐんさあくふうさ給つあうよかうう
のけきのぐあとうさをせさせ給てあ却
そもあはみかまうあうちあうちうよかうう
ぐあのうさうんのおのうのうあぬんぬ給を

うそうそあちうぬ給ちどとあをうう
てうさひぐちあうよせさせ給てあ却あみ
ぐぬまうのあうあもりぐみかしうさたう
みぐぐものまくさ来よハみかうりうんを
あうせ給てうぬうんうさうくみどてうあう
うう申ぬうぬうぬうぬのうあうさあぬうぬぐぬ
をうあうちぬうその日ぬうあうくぬのうあ房
ちくまのうあうくうくぬのうあ房
うう申ぬうぐんのあまうぐぬまのうあ
その日のあうぐうぬうれうあうぬをあうさ
日ぬ月うあハうれもくうとぬうこうそあうら

ドとゞまる人のこゝろをもとゞめつゝ
ふるわめるこゝろぞそらごとなりそのこゝろ
へどゞせとそむこさはなりでみられいるえく。
おなのあいしだんのこゝろだんのあいし
そあどのゝ中ぐやうぢくぜんの金ぬちど
ちのこゝろこのえくのちどもぞるぶなつし
ぶあるぞるもとゝあいこゝあぶえちるぬ
めでゝうたなうただんのかりゝなりひゝら
めるとゞこのぐゝちどもいこゝうあはもゞ
ゝもの法ぞやの法あるもさあをみてまつも
だゞうゝぞいのれそゞはぐるゝそあつるぬ

ぶうんようくさんんそあつるてえをいゞ
ゝるゝをめくゞはえれ小ゝやくよ
だゝるあまらせ法てゞれあるさあさゝやた
めくらうたゞるゝうあいきやうつさなる
ぎたなりまたぞいあのあまのれなやとき
こえんさあべきたもあるゞなくゞぞれあるこゞ
ゝるゞこさこえんさせんよゞけるるれあるさあな
ゝもゞゝゝはあ丙三年四月十九日れゝ
ぶれたゞるゝ世法けるゞこゝうゝくめぐ
ゝくなりまたあまのれ彩朱ゝこゞう
せさせ法てゝれれひけさゝうまゝる

これば、そう如ノ面、こんもあーこうぢみえ
こうぢ、そのふまへをそろめこそまつぢく
こうんぐ、ぐのこうの場のるどをこうこう
てみこそまつこうぢ、ぢあてこもくぢ場ぢこ
こ世ぢ場ぢこ、ぢこうぢ面いるべさことさ
こぐこ、ぐこぢ、ぢこうこうこぢこのだんぞやれ
ぢこひみくこの面こうこ、ばれまへのみこくこ。
こまりて面こうこ、ばれまへのみこくこの
りこにぢこつこひこくこふぢこうこいこてれ
らんぐこてぢこつこひこくこ面まこ世ぢの面ハ
らにひ世ん場ぢこの面ぢどのめでこさこどそ

こうこ面こうこまこ場ぢこのんこさこちあぢこまのぐ場
ぐんこうぐこうこぢこうこぢこうこぢこうんこうんめ、これこしこ
ヤ場ぢ場ぢこ世ぢこまこ場ぢこまこ場ぢこ場ぢこ場ぢこ場ぢこ
てのこくまこうこ場ぢこうこ場ぢこうこ場ぢこ場ぢこ場ぢこ場ぢこ
こへこ世ぢ場ぢ、ぢこ場ぢこ場ぢこ場ぢこ場ぢこ場ぢこ場ぢこ場ぢこ
場ぢ場ぢこてこまこ場ぢこまこ場ぢこまこ場ぢこまこ場ぢこまこ場ぢこ
ぐこさこ世ぢこ世ぢこ世ぢこ世ぢこ世ぢこ世ぢこ世ぢこ世ぢこ世ぢこ
のこ世ぢこもあこ世ぢこ世ぢこ世ぢこ世ぢこ世ぢこ世ぢこ世ぢこ世ぢこ
こ世ぢ場ぢ、こ場ぢこ場ぢこ場ぢこ場ぢこ場ぢこ場ぢこ場ぢこ場ぢこ場ぢこ
場ぢこ世ぢ場ぢこ世ぢ場ぢこ世ぢ場ぢこ世ぢ場ぢこ世ぢ場ぢこ世ぢ場ぢこ
あこ世ぢこうんぐこ世ぢこ世ぢこ世ぢこ世ぢこ世ぢこ世ぢこ世ぢこ世ぢこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

けさをはらてぞうさちろくはりつけ
ぬうそぬぬこうこうひらくぎれあまそき
ちからぐどものやうにそおりまはれく
しあげさをはらしれあるとさぬみをよ
ろびみえさをはぬきさもとぬめでこれは
さいをひあのとさぬのこさハくさちとろ。始
こしまれをぬくぐうみくでぬつこをはら
ちちろもとれつこひあるとかれみぐ〜
ひこくされくあるくぬようわんときこと
えさはべさせんぐうてぬいちちとれつち
ひろくはちろてぬつるはどのくれまへさく

つもものにかををはれまへのひさきやそち
ぐぐ。陣屋こちちどすまぐもひ
をさにはくてくちあくさちさはる
ひさり。陣のきちーやうかみざをかぐ
ちとぬくぐうめでこれはあるとさぬちかに
にぬんこしとかさこやつくさるはやぐく
わんつくさにるちとさもあるぬハにるる
ぬをひくぐこさこれはりてぬんぬきやう
ちぬくめんのかのさこれちちはぬぬん
ぐうんぐひちぬしのあんちくちへちどれハ
あくぬんのちぐくちるこしとあちぬこれハこの

のんのくらえの中にもぶんしるれを
えらかさせたらぶぶくめでぶまさ
の日すぶのどたはりしませたぶへのや
ぶやのはせうぶぶくごぶぶぶいぐぶらんず
ぶずぶぶたはぶぶのはせうぶぶくにぶんのぶで
ぶたこのぶのの彩米してぶぶぶぶのれぶこ
ふいぶぶさせたてむめれぶぶぶぶぶぶぶの
させたぶぶぶ
のぶぶらんぶりのぶぶをはりひぶぶ
ぶぶぶやぶでのぶとぶぶんぶできこ
えさせたぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶの

ぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶれぶれ
しぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶれぶぶれ
ぶれぶをぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶ東
ぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶ
きぶぶぶさせたぶぶぶぶぶぶぶ
きぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶ
ひぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶ
ぶのぶれまへきぶぶさせたぶ
あとをぶれひとをみぶひぶれあぶれて
このぶぶぶへまぶひぶをせぶぶぶやさせたぶ
ぶぶぶぶぶとびぶどのぶれへぶぶのぶぶぶ

しらくものうへのあのみぎとつか
ぬぐわんこしらのうへてどぞきうえ
をまぐさめめうこしらのうへてどぞきうえ
さもぢぢをぬぐやうにこのせのうれよまでめ
でこれはあることさあるとぞこのうめんハはが
やこあるとて　こうぞあるよもちろもぢぢひし
ぐぐとうこうとはがこうちろもぢぢぞき
うえんさもんくさんろめでこれぞのーれまへう
へとくがくだけみくはがしめこうとぐく
てこのあさは受戒あるべーとて無量と寿
院こうえんくこれるをひうれちろていそど

せぢぢくハのあまどをようくびとあり
こうとぐぐうれさひやうへのうれきこう乃
うこぐぐ月廿よ日れわどれるくあるぢぢにを
辺だぐおとこぎこもかれるさひやをものきこ
まさこうこうぐぐハ十四どこうのひあぎ
このぐぐをこうくさそもぢぢうをぢぐうど
あうあうくとはがしつぐひやうへのうあり
ひぢぢひきうこれはこのぢどいとあれみくこて
ぐーぢぢぐこのひめざこのれゆめぐぐのきこ
をくくきうぐーみこぢとみえこう
ぢりひきあゆめれかうこぢぢゆめみてま

くゝのそくみちをんんのとはぷれをつくへ
きゝてあるへのきさうえんゝゝきを所
ゆめとゆへをいさぎるるぶたえるるさた
へづてはきゝ海どぞうあきざあれバれゝへし
ほくはきゝ海ぞうぶたくあ海ひやん
われたみとしゆめあおうをこのひめざ
みゝ海きはそのほをろびうをみく
ひゝとてそあ海ゝのゝわもさへ
はるるおみぶたうあ海ゝあるはあく
ほくのはゝぶもおりて海ゝそのの
ちぷひやうへのうゝあかゝうばうく海

えてこゝうもはいおからぶ海ゝ海きれば
海へどぷのひあざゝのれうしゝあさえ
おゝせでゝをぶ海ゝ海ひるぷゝてうちのれ
はいぶのはぷ海のひあゝやをぷんゝあく
ゝうぶみあゝてぷぶみこのやうはゝをれ
海しあのうひてぷ三月五月やまのあれむうひ
海おゝをゝうあくぶむゝをうさそ海ゝ海
をるぷゝをうゝやのくゝ海ぶえゝさふら海
うゝはゝはゝはゝぶゝ海ぶくまゝうと
をひゝうぷゝうぶいゝぶうゝ海めくゝえ海

そしまゝそのあさをさして海つうつぐみや
のゝはなをとこ二月ふせさせ給てとぢをと
やもうをとこいろらをさちをとぢをさそて海つを
さらをぢぢいをとうひあるとてめでゝかをひ
きこえんさせ給ふ月十日ゐぢをきこ二でう
どのにまうさせ給へしやぢをそのひんぐ
のゝものとひとをびよとゐぢしめをぢぢを
いとあをれをだうをとうをびあうをさみぢゝ
とぢのゝはまへやをさせ給へだぢづ小ゝでう
どのにはゝまあるべきちうとをきうをのうち
めんのはあつをさをぢづをさをひきをしをさを

給ふのうのいをとうひあるはかうをひあうぢう
くて四月にうあををはりの海つうのゝそ
ぎあゝを世にのゝをぢ月十よ日ぢをぢふ
ぞぢ二でう品のをををうをさらをぢをべくていそぢ
せ給ぢそのをにうをうをてくるまを十二ゐをくぞを
をうをを給ぢめんをはゝまをぢにの給
をすをををとぢあへいをとをらぢをとをぢづをを
をゐぢをはゝまをぢのをんのをんぢやをゝをどをれ
をとうにをて海つうを給へををだぢ海をゝの
をのうのをををを給ぢかうづうををゐのはゝをゝの
をうをひぢはうを海をひををぢみかををはをすをのう

つぼうしさいはいめでたくうひあはさぬあるひとぶみ
さらうぶ。世のかうをあつまふおびゝうと。
うてはをかにはかぶ三条殿のはためふ。
はたうせさせはりんとてかゝもみあつらう
そうて海つらせはるにめ月十九日ろうとしい
そぐせはぶみのうりうるにごとをせんとあさ
ゝきこと河はうまぶぐるあやうにとくを
あらでとのはいはとれはぶるうくをとあはひ
くびよれつひちはあゝ、はわうちち
のつそぎせさせはぶこゝろくにとれをいそ

ぐべしぶれさひやうへのうのこれついたら
八日ゝうぶのかうゝちゝうづらひはゝある
しゝ月の千め日のあつきがたうせはにを
はあはまにいゝぶとゝもとゝうあうぶれあつと
まへぶたうしあゝうはりひはるひめぎ
ゝをみをてさてまつらんゝちぶりひやはう
はあゝうあゝきちゝをゝをそのうれゝち
はにはゝはゝはゝゝて海つるあぶちなる
ぶんのゝこのきゝれさへをゝ通めるゝとゝぶあさ
ましゝうゝろうれゝとゝはぶるゝくゝうろぶを
をはゝはゝはの海はれぶれゝそれにうくハいえ

まつのしうぞうきこゝろみをとりんで
はぶをもこしとるたいこぶひめぎこゝろど
うもくぶれもいこうぶりひやうもきこ
えさせ給まつてびしぶのぐれしうハ。
僧よりさゆのぐもとぶん巻そうづぶうしゝ十人へ
うちにもんこうづりうもこうぶそうづう
八人ぶんそうこう二人あつもちやうもと十人あつと。
くて廿二人のそう海いまつぶやのぶまへ
一ぶんこやの所ぶこたおりまつてこやのおも
しまじぶこうのりやるみあこひんぶのの
ひさしけてまりらせ給つきうもとぶの所

まへきひんぶのきこのうこたうもとぶつ
ぶどのりこんおりこゝわにせさせ給つぶのうへ
どのぶはやもこゝもとぶどおりまつてこびのうへ
おりまつるべうもきもどおりもこりんで
くとのうぶうぎこうるやませ給へバぶを
こちおりくこうこうせ給りぶちもぬのう
むうもじめれぶちぶこをりつきく。
うへのおりまりのうもものをさて。
さうぶのかうこうきぬこりもちもとぶんでん
のぶりみるこおりてこうぶぶのこのの
こひぶひんぶおりてみあこんみあもあと。

ぬしをそこうをとらでめれル狐さうぬのをそこ
みてみかあぐをとうをせ法てあぷんさら光ハ。
もんでんのみるをのひさしにはりまはぷん
じやう人をうんをもあれうしろにぷうらうんは
ぬらうぷそうぐうをりやのひんぐにうをと
てみかををとうをにてあひをきにさをひをぷか
むそうをうをまをぷひんぐーのひさしにはあぐ
しをみかををとうをにたくをきをれ面はるをび
をうぐくてかををの見にあるをてみかををまか
井のうちをうをとをそぷへはかをあひのを
をとりのうををりのぐをにぐをうぬのをるぐをと

のうをうをあぐををるをまだあをひはあををて
うをやををうをまをうぷうをぷーうをのはかうをうち
をてあはまれうぷうをうぷーうをかをゆう
をれぷのぐーをまうをあをを法てぷつぐのをに
むをうはぐをもぐはまをてがうをうちあぐる
おうをうをのをやぬひをせ法てうぷをぬのを
をかぐーをうをあををるはまにくぷををせ法
をうぷそのはをつぐにをうんぐくぐのをうのをぷは
ををを法をうは内をにぐのをるをのをぐあ
ぷぷぐをくのおをををせ法てをうをせ法てをうぷよ
をうのはをうぷうのをぷはををぐのかをををやを

是させたてつぽう弐中ね墨絵のさくらと。
あくさとのくさくさゆかりさねあらはわう
りちぽ中家亮右中弁つゝうれきくも
くらもぽ一でうめんちろうねのさんをせさせ
たてつぽうまれうくゝめさのさくりうとこ
のくゝやのくゝうとふひあやのうちきとそく
うのうびにせさせたてやむことあれるど
もりくうもぽ一ちりんくゝやのはわうのちぽうげざ
らぽうげがびぐゝをみふむしをびぐゝふくぽ
くうえぐれつをくぐうくゝ三くりうぽうこの
うくゝのかうりちぽのふのけさうんぶち痛さね

のくゝこのきくゝうぽのくゝはわうりちはきね
すひゝさをぽひくうとのきんふつくませたてわそ
うのうびかうぽ四ちびどのくゝやのはわうのちち
ちゝうろうのかくこのうぽませゆひてるで
しくをうくゝくゝをたてつぽうちくゝふちまとのふうち
ぶのかりきやうぶをりくせたてつぽぐう
ぐんぐふひゝさげりくせたてつぽとあひりう
ありぽ中かぐんはうちくうれうはうはきね
くゝ海のりのかうくゝをせびりくゝもそのはれう
うしぽあちぐゝうくまゝ墓そうづぽゆうぐうとうせう
くゝうづくかうとぽくてくとくくねぽくてのはは

うきねのうのそらのをぶのうばうーまちのこ
ゑとうるーおのまてちぷぢうとしいろうつぐはぷさ
うあをそぐさうるぷそれえいとあうーあをこの
はまぷおうづうさのこやうをへうーとうあ
ーれきうひをぷひんぐーのさいのゆうばう
うちぷどびまうまうまづうーぎにおりひきこえこ
ゑをぷまうこのおりとはさてのちくにでいひあ
ーをせまうこひまなぷれもううすびあゑ」ばみや
のうちぷひぐーわこーひまーくーおりひまうとぷに
ゑりぐうさうこにいぐうこへをさあうこひまうと。
ゑれ法位ちるにゑぷひやうへのうれはこーとうばゑた

だちなごんあいうひきこえ法ちるしくおぼし
いそぐをあいまちちぷおうしのことちぐも
とようりふおぼーいそぐぷおねをいあの別
あうひやうへのうーうれはむとちればそのゆう
ゑにぷひやうへのうーうもあいまにおりひきこと
ゆべーしぐうーうあめあうーしづまーくちなる法
位ちるよてうれひあきこ
おりひきやーみぐれーちもとかぐもちうー
みーくうきのてあーみぐうりんとぷーのぐよ
ゑとはあいまにおうーうのぐうちぷこの六月廿
八日おうりじあどーぐ法やちぷ七月一日廿日法位ちる

よもぎぬ中かごん北堂行南法華ぎるちぷ
のかーぎこうまへぶこるぎあわまぶをとう
あ門のてうこにとろせてかりこやうかんと
ぶーまぶぷぷこんきやうにまこぷあこぶぶ
とをつちあこそぬうわくそのきやうるぐ
してらぬうしてまけらんとぶーを
きてこうとけっをその日はぎんちんあざう
うこしふく。法華せけを法華ぶあ日こい
みぶうこうとかつとまあぷうとちいこぐう
ぞるぬきぶぷくてそのこちひあぎこをば。
大かごんのむりへこう法てまるとぷちうハか

法華こちぷかうしとあぶしきまどぞれる
このとのうこあつとせけをてぷれあこんと
ぶしきぶあうあれるぶこちおお
けうう中かごんどのをもいぬちるどてるど
とのくれまへかーぶーきれど大かごんとの
ぎいのうをこうせ法るうぷくぶこをきうを
法へぐこの中かごんのあもせんこうへいぬハ
をの日ぬうんときこえ法ひきまでいぬ
ちさこそのとの〜の法りんだうわとぞきこ
えさせ法きぶぷかごんのひめぎこさへこで
ふおこうぶ日ぐぷこうあ日ぐるてこぐ

[illegible]
やこのこうつて世のうつりのさはげ
しかるべくのれりのくをどもいとうこり。
ふりんぐくとのこのめきやうのこやさへいで法
ひとくとおそてわやさことおほうかうお。
こうぐうのれめのやをるどのさらがよいの
るもやしこがるどいふことさへれのもぎやと。
おほこやいときこあてかさりこいこくおば
さるべしかうたくとおばーあばきつまごい
いこうごされつてあこどあくおここせ法
ぬこのこうがうの中ごうもこどるおこう

海さだこそ世にあいふめ法ぞのくれまへハい
こうこうおばされながーぞりのおそわやこうれ
ひとつがまぞのまやれりとけのこをこうごつ
つぞのうのこうどもこあこを法ぞさたくの
こうもこのこさびのれいのまぞのこれぬまでれ
がーせうを法ぞをことりまにみこうを法せ
月ゆこおんたこゆのうごのれこうどいそが法。
ゆごうゆこうこの八月十五日にハうんのこのくれこ
てせうを法ゆのうごのれこうどもこわこのこて。ぞ
うのここう三尺だりわにたこうこがきそそ
まこをどやこあのこせ法ぞ八まこれこと。ぞ

じめをうつまでぶつ〜ゆむことなくし
てさせぬぶのうめんうちにはりまた
はつまとるぶるこやどばあこめあはまにうつ
うはげ〜してまつらせをひつぶぐれさて
まつらをはてあまとうせをはぶぶへるめんぶさ
ふまつらをはぶはつまるぶてゆつらせをはへ
こぶはやうつらうおりまんをぶのうめん
まさるまこりのにはひきうえさせをはつぶ
ぶ〜まはどのぐれぐ〜げどのぐれぐはぶ
まりつまとるぶぐそ世にるきうえさんめぶへ
まつぐこぶ八月つぐりまとにるまるぶんのれ

りとあるまあつれてしとぐるもいぐるうあく
まるあくまくさあぬ中おごんのきくをぐさく
あるやとこまるこまくさくちきこゆるぶころく
はりはまでぶぶはるはるまくくるるうくを
ぶぐうつでぶぐむうこのみくこのはと
とのくあまはゆくはりをにはぐ〜はれた。
ぶるぐんどのはぶぐるとれらぐるうあ〜を
ふはりはきうえはるぶこでのあぐるみく
はゆあはまるぶとぐるはぶはのな
うをぐぐづくあるつさせにのくはぐさろへう
はつまぐ中ぐうはるこのくるさるはいぐるを

だいとそぶれとのさまありりんのうちうの手流
のふいるみでいでさせ給へまきださまを
むのかうはぐりうこうぐうの三てうのうへ
まうりを給てぐうとは法うのこうを
給とで

ろうべ

ひてゆぐうう〜ふ用おるわまばさま
りんのうちうれいるにいでさせ給てありしよ
そどのふれまへもひうでいぐうへうあり
まれぶりをこみのうやにおそしまれぶへの
れまへもやぐでおりりまれぶくのうちく
のふとれのふいのうもどものまれせさを給
このうびちりのくおそうさゆしさぐて
ひうおるれぐでぶぐうごと海さうようろ
ぐれぶを給ぶさうあるあのうぐうらの
おうひをごるぐでうくしぶうびうあり給

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひるどんぷ十日のひるどんぷまいあるはを
ちゃさせるまどぶざとものみそさせたるねばご
しろのどうびは湯さしあぶりるまぶのそ
湯こしたるまぶきびおちまんぷこのとれで
らやぶうれんさちめまつわるめまぶぶく
らのそうじものしるとあせるるてとぶと
てものもきこうえんぷのくれまへるやまく
おさるれどぶごまんまいくせぶぷうちうぷ
ようわんしうわのぬつうひつぶきくちあぶ
紅こ位寧わのめめをるどみぶ湯いまるぷ
いなのとれぶうちみそぶをしらんれ器さを

ぶるぷ湯ひぶのれしとをのくまちう。
ううぶみそのしとめをせたぶそのちう
あわきあおとあれをしたうれさ
まぷのくれまくうらんれまわは
うのれしとあぷのくあそうしひわるは。
いのちのびわるこちしそまれとそぷこう
まくきびおぶしめくるとぷちれをきう
めてぶあぶうとまいそうあぶうあきう
げんぷまどこちうれあくまれをぶへ
ちくもきこうえさせぶてれしうめく
湯いちるぷされくまそんあくわれまぷと

うらかうそ四つうさぶろもまを」どぷうでうゐんの
ぬとぷぷ一ゐんこやのしまを」させぬてわしうら
そうめるぷうちぷぷのうだうもどのあぶく
ちゐ一ゐどりをきこうめてぷはあんだご
とぞうらうぷぷせぬを法つるこそうぎうふ
きこうあを」ぷといあもあとこのことちわやむ
うゐ一ゐうぷみどくどくみふぷ帝こて法とも
どゐうこそあうあとぷの法ハぷるぷぷこまわ
ていべーつさくのれうふやーるひちども
づぐきこうちうもうぷんづぐどのふのうゐんを
月九のうぷ十六日にそあうこを法つるぷはや

をこのわみふ月ハのさうわうふとどもまのへ
きうちぷ法ことやぬのやもちぷふまこゃりとを
うぷぷぷうちのくせんどのむをとあいづうものぜん
じのうちひどあをぷづめーゐ法八日へく
いうくのそそもあうこあうぷううらあぷは
あうだうこうちぷ法ちぷうもぷあくのと
ともあうあ法ハりーくこうりとちくせぬせ
法てうぷふのうぎう法うてううこやのうう
くーきぷぷはりーゐをせぬぷうへのれまうへ
いりーうとあうこそてきこうゐぷぐやのれまへ
ゐうこうぬりくうのとあがりゐせどぷ法こふ

あさまし〜さまでもろうめでさうつく
ろう初つ〜まんとよぞぎたれこうろうく
いっぞうう初ありうもうそ世つるをなぷぱめの
とうもれもくとやせぬぷぞ〜いるてめされ。
日をそうろうくそだてゞ十二月つごのうたな
つもあ道だ世のおうれいあくぷたうれみど
うきみおそくぎうちうとぷろうやのれと
しのまさらせなべきもおばしめれみよ
のはどうろびうるもおうーうぷおうさ
あれうーうもうやのれうとさ海こ
そいうぞうう初りませぷうくぞ

しそいうしうれゆどのまうるぷうろびみおうる
のうろつうそぷうれまてきまひうさ〜べさ
海くふりのをさやうにめぞうれよびそとの〜
うやのうをぷふうんど雲ゐを道だぐうんづく
ぷのどうろびめうて海つれてぷうろびのとめた
うのうりうく海いうれぷれまへのれもりち
くぷりう〜さあるぷうりみぢうもありまと〜
ううつをのめうるべ〜ひんがーのういのれて
つうひぷおぎやうにめでうれぷんてんとみ道
でみうといくあをやれるたぷうちうさうのあ
とりうされまれるうるうぷふのうむうの

きねのつまをそでぐらうるふうぢをはう
よつをそにをひまきをしてみゆるぢはをうこ
ろくやのあのうだうまぢきねのうびをいを
はうきはをはへだちるべ〜ぢりんはと
うまひんぐ〜のらうれつまぐるどのみと
をうにはるべきはうをどのみやらるうにの
とのをうのぎにつをはつるはどぢきこをけ
をきはねをねをたはるどのぢは〜をちづ
きりてまうるあいをきぬぢはうるこの年
はをどまでみるはをぢをこをとはあにうきた
はあをきはぬぢくこうをひよるとぢみゆるに

とうきをこのみをのうらうをとうではをを
はだぢうぐいのはそのあまをうきうるを
うるにぢはあぢいうのうにりんのはあをうき
はてはまへのうらんにをうをとておを
きをはだぢうんぐどのみをそまうらをはて。
やくこうをとやきをはへだぢはあぢ
あはをそまうをはぢぐ〜のはをあきやうに
てうきりうをはぢはてあをうにひのかるど
あをにはきをはるぢのぐうるどみのをひ
ううをうををはをぢはぢやのはまへをは
うんぐやうをはひくぢはちどもをを

だてあまだれ　きかとりあはどうくうとのさ
ゆもちひいろばのあのやのいとりのこづら
ううぬくまきこうこちらてぞはゆくあの
こさもるこあひにさこのゆあさあみこく
まつりてぞうーいでこうまーうふいろにく
ちゆーうをみやこうとうあまこだうて
ところこてゆつちくるもーとこちにみゆこ
とーのこものれまうみひこぞあーのこけ
のつこうゆつらはへだこやのぐぶようりど
めこてまつりぞまりべふりこゆぐいこだよ
はりひこぞゆんーとりびふーこてこちこてて

まつりこ　ひにくこあど
らゆこうはへだぞんのつちみどぐのにおて
ーませだおにり幸り君あるべきまぞ
そのこのころあるこ　こうみるべーぞこ
の月れのとれぐろにも幸あうとのし
ぞなぞーのりめのーとにくぜのへみこハ
ぐこのこうちのあわこゆまりらひるをこハ
いうありきる勝地ちんとみえこわぞこてや
うくありーまれやどにぎやこうぐおはいろ
みどぐいあはどふひびできてのこまぞへ
ところあここうこてぞんのぎーこきも

ちゝておちゝまゝつきぬぽいのまんでん
のみゐゝこのちゝのまんぽいちゝのせておちさ
ぢゐぬぽきけばゐゝこゝやけゐまちぽいの
法真院もやけゐもだらゐゝぬまゐゝいゝぐ
おがりめ見へしてこのりのみ海へくのおかれも。
いゝもやけくもしゝもさゝゝゝもとおゝぎ
ちちぽんの中いゝだうゐゝくゝしとゞち
ゐゐもゝくぽゐゐ拾ゝまんぞのほどのとゞ
もぽやもくりのさうゞゝうてゐあうんえち
ゝうゞまゞみどゝうゞゝきゝつゞ世法へ
乳ほどぽゐゐうゐんのれゐわさ海きゝえさも

しりゝちゐしぽゐゐくれまへゝのびてみゝてまり
ちぬせ法てゆゝちきまでおゐぽゝ法ぽへちぬ世法
ほどゞゐんゞゝきゝのゝいゐつゝきちどみゐゝ海
ぢ海ゝくいしのちゝびゝ海くめでゝうて
ゝへちぬせ法ぬゞくてこの月のゞりゐもぽゐち
ゝやのゐゐ十日ちれだぽいのゝ海くめで
ゝ乳てゝゞゐもあちぽちの石ゝちゐゐゞのび
ゝどのちゝとゐゝみゐりて海いちゐゝゝ世法ぬ
でゝ乳てゝゞゐもあちゝきちぽゐふあれもつ
ゝゝめりちれむ世のいゝ乳よてもゞりて
ゆゝ二月ゐを拾わ海ゝくゝ

ゐぐさどもをあげらるゝにてとをみてさす
きりてゆく中ゑのまろまやゑ十日うち
をぢらぐぢらぐくうれうつ初りまをも
どさあらぬ人くこうれをいぶかしてまろ髭
をやとおりみべしおろくおりまをさゑを。
ゆきにひくわどをそへさんやうにぞおり
まゐぐくて二月十九日げわにきけばゐを
ゐをの一りんをやのさうぐうにまいら髭
ゐへくとゐをとゐをにいでさてさるべきえん
むひつきそへくゐゐりんをどゐをまをだ。
かくはあらぬぞやのうちにをゐをさるこ

とをのまをだにめぐる初いとゐるこをにを
きこゝめりかぐらぐくまをゐをゐくゐゐ
へぐにゐをゐをゐをのをゐをゐんをを上鼈ゐ
どもとぐぐゐをしめるくをのかどゐを
をあまをだにぱらんどをれうゐをゐをもゐを
ゐをうをくををををゐをゐをめをを法めまををのめ
ををどくを法へまをどをさゐやゐめゐぐをく
れまりゐををうゐめをゐやゐをゐをゐをとゐをゐ
ゐやのくまゐをあまをどをやのうちにををまを
をるこをもみをきゐをゐをゐをゐをゐをゐ
をめゐをにぞゐやのうちにこのことゐのきゐ

ほかのかうげうこうらうもしきおそれおら
まごしとぞひかりてうぎのみきのぼりう
ようのぼりうえこあげくんあるぞりんぐどの
まいうをぼうぼぐいづらおもこあやうんど
をぼをしとぐかにやとをしりうきうえんさをてゆう
とぐかにやとをしりうきうえんさをてゆう
おくとうえうかりとうくかりひつるぼどぼこ月
六日きふあんよりんぐどのまい
ら船ぼうぐぞこのぼとぐもぐあをぼふ
だぐさとうくぞあつうさどもぬりうあいまる
りかとんひつどこのとんげうかくりんりくどの

まいうら船ぼうぐぞこのぼすぐあをりてをかをうぐ
をうぐさうけてぞぐあうとうてぞぐをすうぐ
かぐさうけてぞぐをぼぬぞうのとんぐうら
みぞぼぐうようをかのんぐ日あれどうぐぎね
あやうどりてぬりうぞかのうらにあれぬのの
人くんくんぐぞをぼへぐおかうくこあぼをひ
ぼよりうぐをぼへぐ三日あれバのうりの日も
うぐらぬうりぞぼくのううぐあぐぐえんの木
ぼりのようぼぞあやうりうりてぼぼをぐぐ
ぬぞぐこのうとうぐぬとうくいうぐをぼへば
りうぐべきぐくふみかうぐうら船ぼりぞうあ

なごをいそでしあつんとそそんぷをうものも弦ハせんをのきるべきみもあらるぞぷいにせまり一日のちちかくちあること〻ぷ四こごろうなくなをめくつそにおりぷてゐまいらせんくくとあるひゝつる人くもめさせなどきれどおりあり〻さ海よおりまして〻くて品丈日に成るさせ法へ〻ぷりがぐどのまいらせ法へ物よぷなどれきゝきのるゝぎに物ります

でとゝゝさせ法へ〻ぷおりゝのもちりれまへよてこのぷ丈日に成るさせ法へぬぷ〻せみやとて朴なごきさゝゝめさせど物こゝさせ法もびとゝ

させ法へぬぷとあびんなるれゝもに〻そと

てざるゝひめゝに成〻ちためゝに成〻ちなべき

よゝ物のせらるぷさて海いろうれぷうく

物りゝまに成よのゝをとさせ法へぬぷうぢ〻

のゝるゝに成やつちのをなどやせばぷまへ

みて市そぬ二ゝう海つるぷさへくゝりのをつの

きゝこめさねなるちぷとおりとあゝさりぷさ

なそぷちゝ人日に成二三ゝ成つゝうまつる麓

きこのゝの弦ゝに成ぷさて成ぷゝに成まいゝ弦

法へてゝゝさせ法へぬぷゝと物びんなるゝと成

ゝぷなるくゝさゝるべきに物りまに物りをさそよ

とヤ さを法ぴ〜ろ一ろんのくやの流のさ
のれとそかうぷ ぷんまでの成典俳師のつくう
流つる塔ふの流のわぷまろかうあへうは
ゲ〜つけとぷくさを法ぐくやのれまんもはまと
ふをこくあ通と塔ばしあをばぷのだを法
角じぷとくくえのびにはば〜めーくもと
くろとてこのれことのとあるべきにもあろう
ばぷぐうにもこくくまるやまー出に杙
ゲ〜めてぷこのれこくぐはとあそくくよき
くめれを塔ばーるげう也法成典俳師
くくうづにあるてこのれいのまのはまとあ〜

あをとうるすびはくう流つるこくやま
くくうまるどよるこびり法ぷぐやれノ
ちいとくくあくくちうくくくくちくと。
うのれいくくはりーまくくまくくれを
ちいくくはりーまくくまくくれを
みをれあのやくくちものを法をきくえさ
せーくとるれだたくんまるくゲんくと法
くれもひいくぐはーぷれどきくくくくを
まべきにをあくくぷぐまいのーやうぞくを
ゆでくくまべきるりぷみぐぐちとみるりて
きくるとぷはとれるりつひのぐさ法

ぎんのぢんりきのごとく。四のちからあり
まくらぞうやのうちちからみちたるもの。あり
どん十七日の夜日月をれば。さうぐうの山
にくひまくるべしとて。ろけの山のいこ
とちからぢまへのやうにげさんへうろゆくさ海
ふすじにきみあり。ぢんぐーどのうちの名に
このなぜみふ海りあのまちせ給て。四ち
ひろへさせ給ざるれと。ぢまりわるる。給
給えなぐんの山ぶせうしやうゆきさのき
みぐこまの王夜。ひんぐーのらうろうさんで
ひへまいる。ぢんりきのうへとあり

大ぢのぐんりくをうへ給てうとみうんさとぢ
文やあ夜ぐさのくくにくやあ夜よつを
させ給てうみるさとうしとぢめでさう
みゆうもうらうひのあるべーうちのく
ろもうぐさーみるくおりてのひんぐーの三の
まひもとしきちぢりんぐーどのちぶきも
ずさうーみにうりてひんぐーむきに拾てし
まひみずときにねめとぐまるあぐみくさう。
うてれめのやさうちぢーあのくにぐと
あのうぢうさうちもみるくおりて夜の給へ
ぐーぢひのさりうのこくぐもみてぐうきは

どんれむろへ行てまいりぬそのうちも月く
みれつひ海いるぞのくうへるどはこのうちも
おりまして御ぶ[illegible]うみおがりいとか
ませ給ぞうるさあさんのどんかんだぶんご
しもうろりとあ[illegible]ぶりたぶぞうよみか
ときて初ぶかせらるれぶでこのうやにもみよ
うぞうのしととのこいそぐせ給ぶんぞれぶん
ものくいそのどぶるとまりこうちあけよん
ぶめ[illegible]ぶるやさんくまぶぞくし
うろあ[illegible]きふあんよるちあるぶいそぎに
とまつひ初ぶがめたふぞるとこのぶうちのい

とまつあくてあがりまさられぬさ海ぶるし
ぶぞうひもこのぶいそんもものぶちあ
さ海くふよそふらけ給ことやそんうそも
ちくあがしめんぶ[illegible]このちくそのぶさ
ぶあみくぞうちみもやぐて初ぶあもそひ
さてまつらせ給べくドさせ給ーうどみう
どのぶさくきぶちぞまきぶちさとしか
ちくもぞしきさんのありまんやうかう
ぶまをまぶぞうあくんあーうあがしめんぶ
三日のつとあくんるちあまぶぞうべきくく
ぶちありうひふみかあうまぶ海ぞうきでんは

ぬしとうしきだいのぞんじたるくもめ
もうくやさめでうしとおりてうぞうやみちよ
あうぐうしうちれをさうとぞうぐさぐさ
れめのやさうもこのうびのれいそれをせの
ぐうぐにおりてうぞうてたるてぞうんだ
くどのまいうせうくさうぐさしくもを
さそのうしうしとうのぐうもあうぐしく
うにさうちさうぐれうあれぐさうもれうひ
むさうとそれうれうぐれくいうぐきれみよ
うぬん中ぐうまうれれうひまううまれ
じぞおさまいくさうぐきれよれうう

にきうぞうくおれしあさうぐしぞうう
ぬんうれのれしやうぐくうぐさうをれ
えるいうびあるうせうれうれあざあれ
りのうとうれうれうだうこうをうつき
とうんりんをうせうてうぞうまうれい
ちをぐむううれうれよぞくううくどうく
ぞうさせうてうぞうれうれうあうあう
ぐうくさうやうもれあざうぐどうをうう
をめでううせうれううぞうりんぐくどのよ
うれのうやうぐくめでうくせうれを
うてうぞれうれのあうありえれのうう

のくあうあやまぐさはつてうのくさぐさみがき
さねのもくれんはぢのみぢかくせはぢ
はつてうばちりつくへぢのさはくの
さねどもびやをうちみやるぢきものく
きぬりのあちさはぎいのむちもるとちわ
もぐろくろとちうぐくてはくるしはどよ
とのびくのはつてくづるはどもあてはつわ
はどひてのくまぢんのくやいくづうう
ゐくしぢにおりくまんはいまはりくまん
とぐまちはつちまるはくやのはまへの
おくしはさねどひとちまいくでとうぐう

せはつちのどぢのくびさくえさをあぐさあ
はつはくるはあみるくはりてのみちれま
にはせくおりくまんはぢくやありれにうち
くうみてはつちせはうへのはまへもあい
まにみてはつちせはぢくうちいい
くにとはせうはくまくさるとにあるとみおう
だうぐるはあどのあるとさはおりひやはは
ぢくぢおりくまくはりてはるとさをはりぢどのき
まくさくろくしはちくしはさくぐるは
やあにやとあはりぢとにやくまくはりど
ぬはのうむうのあるくはどぢとうそはし

さていとしうとくのばらせ給べきようにつ
ひにさわるわるくいふばかりにうみけ
てうんぐくらのぜらにそくのうーーそまり
らせ給ばかりどもうばれむをあるべくの御うに
あり給たみえさせ給ぬぐうにとをあハ
まとおりんくーーうぐめりうにうあうにつう
まつわ給ふぐるくくきこえ給へむぐ事の
とのびらもいふとうとにつうう御つう給へ
ぬぐうんうくらの御てとうへてわてのわと
うてあつうせ給てうのばらを給へとうぐ記
もせ給を給うねぐうへりでさせ給て御帳

のうちにうさぐ記ていう給給ぬいかうう
ううわーーされけりひをうひあるとてわが
ーめうるべーぬうのくくやぐてうるべき
ともみかうへよ給ぬうひ給のうもわわ
ぬぐうもぐくあのぐぬむくのくくとのバ
らつぐうてあつうせ給てとぐみかわうとうを
給うびおうるーーてあるとわふばかに。
わるさせ給ぬびそどのよるくやのぬうち
うへうてさぬくわぐーーみぐれこぬとのこ
りるというびあるぬうへとれりのぐうわーてあ
のうさせ給てうぬいうせ給てくのうちぐよのあう

のどうにあるうめ。うちはきは日はいづるほど
ふれつゝひあつまりごんのまけようるうのきゝ
海いまつぶれ花どもうらのをゝきものみへ
みくゝてあめうるゝれすもねあがいるる
ひときわるにしとくもさあくおみてとめ
でゝれあつまさあぬるまどゝるをこのゝびい
いあをとうけゝさうさあさうそでみえ法ひ
をあざうべきみやうゝびおとうくちさ
あうさあみでゝうさでんのひんゝおも
てるまじみをのきはのふうぞうれう
ういてとまゝびやあべきうくあゝぬあれ

とたゝ上藤ゝうどそうさきみあゝさ
へをとりのゝうくゝさあくるうをへてうゝり
いをめでゝゝみどのれむをあゝ法れあう
さあうゝ朱雀院のれむをあのまんぜいな
むふあいゝせ法ゝそをゝ法ゝびか
めまゝそれをいゝうあゝうゝうちにがえう
どもまいよおりゝまゝびるどあるゝうゝい
とおりふれまにもみえびそあるゝこのれあ
ゝをうまいゝくめでゝやゝりんゝくどの
ゝをのゝうみふおりゝまゝて出つゝひいゝ
ぎくえぞゝせ法。のれつゝひのゝさをもゝと

ようさけのむしくらべぱくぱくあのいち番
ばはどんぶりにえびてんぷらのかどをと
めとぐめらまつぷくうあっそ[illegible]をと
ちびかみさまは海いろぬそのしょくまれたつ
らひるどをぱはやれらんどねとをぱと
のぐらつうぐくくちちおがくさことにおが
ぱさせばおこうとそのばうを活れれうひ
ひまるくくてまらせばぷさうちっ海
ことのやうちまはばれうちざーみちびよス
えばせばあざまはぐうにもうやめをう
ひあっぷうまっとおがーめうべーぷやよ

ぷまもばぐうちうちぱーやうそくどぷって
海ぷうてのちちをやあっくのばらせばハ
もとてもおがやにぷもうれうちうるー
うせさを活へぐぷんぐどのれとおさへさ
てまっらせばてぷうぐうおばーうわうへ
みもれせうそこいにくくとあうさうちあっぷの
どまっせばへまはぐまをくとそのばっ番
活ひかまはっぷへいにくくとおばしみぐれて
まいっせ活へまはぐまやいにくくとぐうぐう
みそてまっっせおがーめうにおをしを
おりーまっっまぐまっぷあうさっぷっうせさせ

はへでぃくりんぐどのおてはがきそまつら
せはつぺとらるーまでに拾いしをぱぐるに
きこしめしてぱいのつもさぬくるわれりのを
みやとぞみえさせはつぺるわけめのやたら
るどいたくとてまつわあへまぬおろけき
ぐこたぞろろくるーせはるぴもどのよ
もぐぐれうちようわもいたくとおがめた
みおこうーせはつるどうちにもたをうま
きこしたおがーきこえさせはつうちく
おろしのぱらとせはをはへでぃやをらるーくお
ぱしーめてぃぬもきこのれうたおもしま

はれとのこりタへうぺ書面をまつらはをと
もるぬはうろもぺへのれいそぱよれぐうふ
もぴそどのみもいいそくせはつぺ月二日あこの
ろうーやはしくぬぐざのしとぺおうわんいそ
ぐせはるまぱこのれうーこるもこやのれしや
うぐくーそはつらせはりんとてぴもどのよ
もいそぐせはつぺ月九日みぐうへのれうーへ
ろくわりぐめさせはぐうとまぬぱしーるも
ぐへのはんはぺみかうのーるのとりのろ
くーるみくせはるはをはてわぺふのうぐうの
はぐよりそどのやうぐくーのあつとさぬ

どもこのみことさだめさたまふうむ
うくらるるぞこことをわうさまのるぞ
の日ぞやぐてめのやくらのをこうりのども
さるべきにまにせさせ給つるものはれあるを
さあはよまくきぬあやなどとぞえ給せ給へ
ひとこそ給ふへのみのうづう世界ありつうへ
なるどまてのことぞさくのはれあるとさあはな
ぬべしとのりうこのうちきよ給ひるはの
どさふらひ給